

邦字新聞に対するプレス リリース
2008年4月11日於ブラジル日本商工会議所

1995年に実施された日伯修好100周年を祝う記念式典や種々の記念事業を強力なリーダーシップで取り仕切った故橋富士雄氏を委員長とするサンパウロ日系協力委員会は、その折の余剰金85万リアル(当時は為替換算で85万ドルに相当した)を原資とし、日本、ブラジル両国の交流、相互理解と友好、協力関係の増進を目的とする事業を実施する為、1996年5月31日付けで「日伯修好100周年記念基金」を設置し、その運営委員会を組織する事を公にしました。

同記念基金設立趣意書は、その冒頭で、本基金はブラジル日本商工会議所、ブラジル日本文化協会、ブラジル日本都道府県人会連合会、日伯文化連盟、サンパウロ日伯援護協会の5団体を構成団体とし、その運営委員長は常にブラジル日本商工会議所会頭が勤め、事務局を同商工会議所内に設置する事も合わせて公にしました。

これを受けて、上記の5団体は同年9月25日に「日伯修好100周年記念基金」を管理運営する母体として「日伯友好交流促進協会」を設立しました。

基金は爾後今日に至るまで、5団体の長で構成する運営委員会の統率下で活動してきていますが、2003年6月26日の同委員会の決定であります「基金からの資金助成の一旦中止」時までには23件の事業に、原資の総額と同じ85万リアルの助成を行い、それ以後は専ら、金融運用に終始して参りました。その結果、本年2月29日現在の基金総額は172万7千445リアイス34セントボス(R\$1.727.445,34)となっています。

基金は昨年11月から移民100周年記念関連事業で助成要請のあったプロジェクトの審査を開始し、本年始めまでに計7件の案件に合計で57万9千リアイス(R\$579.000,00)の助成を決定し、逐次受益団体に資金引渡しを始めております。因みに、上記に付いては去る2月20日付けでその大要を邦字新聞に発表させて頂きました。

次いで、今回、プロジェクト審査の最終回と言える第三回の5団体長会議は、去る3月25日に開催されましたが、基金は、ブラジル日本移民100周年記念協会からの3月11日付けの依頼に基づき同協会からの「基金宛て資金協力要請のあった最

優先対象事業」から4件を選び、夫々への助成額を定め、承認し、これらの4件に、合計で、基金残額全てを引き当てる事に決定しました。

6月18日の日本移民100周年記念日を前にして、5団体の長のこの満場一致の決定を本日此処で広く皆様に公表出来ます事に非常な喜びを感じますと共に「この決定は本修好記念基金創設の先覚者たちの意思に沿うもの」と確信する次第であります。

本基金からの助成額は各案件の所要額に比し僅かなものではありませんが、日本移民100周年記念協会の募金活動に尚一層の弾みを付け、その主要行事は勿論、主催、共催、支援事業の何れもが成功裏に終了できます様期待致します。

本日、下記4事業プロジェクト責任者の皆様にご参集いただき、助成金額と資金引渡し要領を明記した覚書の授与式を会議所の4月会員懇親昼食会の好機を利用してその席上で執り行いました事ご報告申し上げます。

記

- 1 従来の文化、福祉事業を更に拡充し、日伯交流の絆を密にする為のブラジル日本文化福祉協会のビルの改修
助成金額 R \$ 200.000,00
- 2 既存診療機能拡充、老人施設設立、社会福祉基金の設立も含めたサンタクルーズ病院の増築
助成金額 R \$ 466.000,00
- 3 新アルモニア学園（幼稚園から高校までの日系全日制学校）構想と日伯教育機構実現を目的とする事業
助成金額 R \$ 211.000,00
- 4 日本移民100周年記念協会のその他の最優先プロジェクト
助成金額 R \$ 250,000,00